

# 音 楽 科

## 1 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

音楽科の教科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して学習が行われることを前提とし、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動によって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指すことである。その上で、育成を目指す資質・能力として、(1)に「知識及び技能」の習得、(2)に「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)に「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関することを示すことによって構成されている。

なお、**表現及び鑑賞の幅広い活動**とは、多様な音楽活動を行うことを意味している。また、**音楽的な見方・考え方**とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること」であると考えられる。**生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力**とは(1)、(2)、(3)を指す。この資質・能力を育成するため、学習の過程では、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生徒が自覚できるように指導をすることが大切である。その際、音楽科の学習が、その後の学習や生活とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかといったことに生徒が意識を向けることのできる場面を、指導の過程に適切に位置付けるなどの工夫が必要である。

A表現			B鑑賞
歌唱	器楽	創作	
共通事項			

内容の構成

(1)の、**曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解**することが「知識」の習得に関すること、**創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能**を身に付けることが「技能」の習得に関することである。

**曲想と音楽の構造や背景などとの関わり**を理解するとは、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や背景などとの関わりを捉え、理解することである。なお、**背景など**としているのは、歌唱分野における「歌詞の内容」も含んでいるからである。**音楽の多様性について理解**するとは、単に多くの音楽があることを知るだけではなく、人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによって様々な特徴をもつ音楽が存在していることを理解することである。「知識」の習得に関する指導に当たっては、主に次の2点が重要である。1点目は、音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること、2点目は、音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できるようにすることである。

**創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能**とは、創意工夫の過程でもった音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を音楽で表現する際に、自ら活用できる技能のことである。「技能」の習得に関する指導に当たっては、一定の手順や段階を追って身に付けることができるようにするのみでなく、変化する状況や課題などに応じて主体的に活用できる技能として身に付けることができるようにすることが重要である。

(2)の、**音楽表現を創意工夫**することが表現領域に関すること、**音楽のよさや美しさを味わって聴く**

ことが鑑賞領域に関することである。

**音楽表現を創意工夫する**とは、音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて思いや意図をもつことである。**音楽のよさや美しさを味わって聴く**とは、曲想を感じ取りながら、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである。いずれも、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることが必要である。その過程においては、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫することが大切である。

(3)の、**音楽活動の楽しさ**は、表現や鑑賞の活動に取り組む中で、イメージや感情が音楽によって喚起されるなどの情動の変化によってもたらされるものである。**音楽を愛好する心情**とは、生活に音楽を生かし、生涯にわたって音楽を愛好しようとする思いである。**音楽に対する感性**とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るとき心の働きを意味している。生徒が音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき、生徒の音楽に対する感性が働く。こうした学習を積み重ねることによって、音楽に対する感性は豊かになり、生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうことにつながっていく。このように、音楽に対する感性を豊かにしていくことは、音楽科の特質に関わる重要なねらいと言える。**音楽に親しんでいく態度**とは、音楽科の学習が基盤となって生涯にわたって音楽に親しみ、そのことが人間的成長の一側面となるような態度のことである。**豊かな情操を養う**ことは、一人一人の豊かな心を育てるという重要な意味をもっている。情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をいい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。音楽によって培われる情操は、直接的には美的情操が中心となるが、美しさを受容し求める心は、美だけに限らず、より善なるものや崇高なるものに対する心、すなわち、他の価値に対しても通じるものである。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改定の基本的な考え方

- ・感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。
- ・音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図る。

### (2) 目標の改善

#### ① 教科の目標の改善

音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「(1)知識及び技能」「(2)思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」について示した。その育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習に取り組めるようにする必要があることを示した。

#### ② 学年の目標の改善

教科の目標の構造と合わせ、「(1)知識及び技能」「(2)思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

### (3) 内容構成の改善

「A表現」「B鑑賞」に示していた各事項を、「A表現」では「知識」「技能」「思考力、判断力、表現力等」に、「B鑑賞」では、「知識」「思考力、判断力、表現力等」に分けて示した。

### (4) 学習内容の改善・充実

#### ① 「知識」及び「技能」に関する指導内容の明確化

「知識」に関する指導内容については、「曲想と音楽の構造との関わり」などを理解することに関する具体的な内容を、歌唱、器楽、創作、鑑賞の領域や分野ごとに事項として示した。

「A表現」の「技能」に関する指導内容については、具体的な内容を、歌唱、器楽、創作の分野ごとに事項として示した。そのことによって、音楽における技能は、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにすべき内容であることを明確にした。

## ② 鑑賞の指導内容の充実

「B鑑賞」に、「生活や社会における音や音楽の意味や役割」、「音楽表現の共通性や固有性」について考えることを事項として示した。

## ③ 〔共通事項〕の指導内容の改善

従前の趣旨を踏まえつつ、事項アを「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、事項イを「知識」に関する資質・能力として示した。

## ④ 言語活動の充実

「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること」を、「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっての配慮事項として示した。

## ⑤ 歌唱教材及び器楽教材の選択の観点の改善

歌唱及び器楽の教材を選択する際の配慮事項として「生活や社会において音楽が果たしている役割を感じ取れるもの」を新たに示した。

## ⑥ 我が国や郷土の伝統音楽に関わる指導の充実

歌唱や器楽の指導において、我が国の伝統的な歌唱や和楽器を扱う際の配慮事項として、「生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること」を新たに示した。

# 3 評価の観点及びその趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1)</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2)</li> </ul>
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※ 「知識・技能」の観点の趣旨は、知識の習得に関すること(※1)と技能の習得に関すること(※2)とに分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力(事項イ)と技能に関する資質・能力(事項ウ)とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を「A表現」のみに示していること等を踏まえたものである。また、「A表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「A表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」に分けて設定することを原則とする。なお「B鑑賞」の題材では、※2の趣旨に対応する評価規準は設定しない。